

①事業の基礎情報

事業名	高浜カリキュラム推進事業				担当部・グループ名	教育委員会 教育センターグループ				
実施期間	平成 26 年度～平成 29 年度				担当 GL 氏名	内藤 克己				
新規・継続の別	新規事業				電話番号(内線)	52-1111(内線 350)				
縦(計画(基本計画)体系	個別目標	(4)学校・家庭・地域が連携を深め、12年間の学びや育ちをつなげます				予算・事業上の 予算書上の	款	10 款 教育費		
	こんなことに取り組みます	各園・各学校の特色や高浜市のまちの資源(ひと・もの・こと)を活かした「高浜カリキュラム(生活・総合的な学習の時間)」を市内全園・全校で実施します。					項	1 項 教育総務費		
	みんなで目指すまちづくり 指標名	・ 学校が好きと感じている子どもの割合 ・ 学習に積極的に取り組む子どもの割合					目	1 目 教育委員会費		
		現状値(H25)	・82 ・69	実績値(H26)	・88 ・77		実績値(H27)	実績値(H28)	目標値(H29)	・85 ・75

②事業の概要

目的 (何をどうするために)	・子どもたちが、地域の人たちとの関わり合いを持ちながら高浜市の良さを学ぶことにより、「高浜市に住み続けたい」「高浜市に誇りを持っている」「高浜市をより良くしたい」という思いを持った未来市民を育成するため。		
対象(誰・何を対象に)	幼稚園児、保育園児、小学生、中学生 幼稚園・保育園・小学校・中学校の全職員	対象の数量	11 園、7 校
最終目標 (最終的に何がどうなれば達成か)	・子どもたちが教職員だけでなく、地域の人たち(ゲストティーチャー)と関わり合いながら、高浜市の伝統・文化・地域の特色などを学んでいる。 ・子どもたちが高浜市の良さを実感し、「高浜市に住み続けたい」「将来、高浜市のために貢献したい」など、「高浜市民の一員である」という自覚を持って成長している。 ・子どもの学びや育ちに関わる地域の人たちが増えている。		

③事業にかかる事業費概要

平成 26 年度(当初)		決算	主な内容	
事業費総額(千円)		130	異校種間連携推進委員会の指導講師への謝礼 1回3万円×年間5回開催 (アクションプラン No.18、No19、No.20の事業内容の指導を受けた。)	
財源内訳	一般財源	130		
	特定財源	国・県支出金		—
		その他		—
補助事業・単独事業の別		単独事業	単独事業	

④平成 26 年度の実施内容（目指す姿の実現に向けて、どんなことに取り組んできたのかを整理する）

実施内容	何を・どうした ※箇条書きで記載する	いつ(年月)	アウトプット
	①小学3年生の「福祉」領域について学習計画を作成・実践した。	H26.4～	全5校で実施
	②小学4年生の「環境」領域について学習計画を作成・実践した。	H26.4～	全5校で実施
	③中学1年生の「キャリア教育」について学習計画を作成・実践した。	H26.4～	全2校で実施
	④幼稚園・保育園において「食育」「身近な人」の保育計画を作成・実践した。	H26.4～	全園で実施
	⑤各園、各校の実践を、他園や他校が参考にできるよう、「学習指導計画」や「ワークシート」などの各指導資料を作成し、全園・全校がいつでも閲覧できるように保存した。	H27.3	全校・全園で実施
進捗状況	当初に掲げた計画どおり、順調に進めることができた。		
実施内容に対する成果 (事業の自己評価)	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆ 子どもたちに「学校を好き」と感じさせるための「確かな授業づくり」「魅力ある学校づくり」の観点においても、地域の方々によるゲストティーチャーを取り入れた「高浜カリキュラム」による「つながり」や「魅力」、「専門性」ある授業が展開できている。</li> <li>☆ 低学年生活科の実践は、年長児にとっては、入学の不安の軽減や心構えにつながり、1年生にとっては、先輩としての自覚を持ったり、自己有用感を抱いたりする貴重な機会になっている。</li> </ul>		

⑤課題と今後の取組みの方向性（平成 26 年度を振り返り、課題を抽出し、今後の取組みの考え方を整理する）

課題	今後の取組みの方向性
<p><b>（1）実践の継続・内容の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年度に全園全校全学年の学習カリキュラムが整う計画で進めている。しかし、学習計画は、目の前の子どもの実態に応じて作成すべきものである。実績成果に重きをおいた形だけの事業になってはいけない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高浜カリキュラムは、生活科や総合的な学習の時間に位置づけている。市で共通の領域を示しているが、その領域が果たして本当に子どもの未来のために必要な領域であるのかどうか、これまで学区に根ざして展開されてきた特色ある題材を、市の事業として体裁をそろえるためだけでなくしていいのか、総括していく必要がある。</li> </ul>

⑥課題解決に向けた平成 27 年度の具体的なアクション（案）

計画(案)	何を・どうする ※箇条書きで記載する	いつまでに(年月)
	①年少「食育」小3「福祉」小4「環境」中1「キャリア教育」について、指導計画の作成、授業実践をする。	H28.3
	②新規に、年中「食育」小1「生活」小5「防犯・防災」中2「キャリア教育」に関する指導計画の作成、授業実践をする。	H28.3
	③異校種間連携推進委員会を定期的に開催し、各校の取組みについて情報交換をするとともに「教育基本構想」の目標に向けて事業が進んでいるか進捗管理する。	H28.3
特記事項		